

# 令和4年度自己評価表

### 【中長期目標(学校ビジョン)】

- 1 主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
- 2 チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。
- 3 地域連携の主体となり、地域に根ざした学校としての役割を果たす。

### 【今年度の重点目標】

- 1 授業に集中
  - ① 高校生活や授業におけるマナーの徹底。
  - ② 全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的にALやICTに係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。
  - ③ 一人一台端末の効果的な活用と、新学習指導要領、特に観点別評価の導入について円滑に対応する。
- 2 行事で団結・部活は熱中
  - ① 本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティを育むとともに、地域から信頼される学校作りを行う。
  - ② 生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。
- 3 進路に挑戦
  - ① 基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。
  - ② 多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。
- 4 業務改善
  - ① 慣例となっている行事・会議の見直し。
  - ② 時間外在校等時間の縮小。

	具体的項目	令和4年度当初		評価結果(9月)			
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 授業に集中	高校生活や授業におけるマナーを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・98%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。(生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は97%、職員の割合は94%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が98%。</li> <li>・現状の校則やマナーを守った上で、生徒の主体的な活動により、校則の意義を考え、必要な見直しが行われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律的にルールやマナーを守ろうとする八頭高生の育成を目指し、挨拶の重要性やマナーの遵守について粘り強い指導を行い、様々な機会を捉えて保護者の理解を図るとともに、生徒の自主自律の取組を支援する。</li> <li>・学校評価アンケートの結果を分析し、教育活動の改善に生かす。</li> <li>・生徒保健委員会生活リズム調査を毎年実施し、保護者との連携を図りながらルールづくりを進めるなどしてスマートフォンの長時間利用者の指導を継続する。</li> </ul>			
	全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的にALやICTに係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AL9の視点をもとに生徒の活動やICTの活用を積極的に取り入れて、延べ15名の教員が公開・研究授業を実施</li> <li>・昨年11月段階で1日あたりの学習時間は1年104分、2年102分、3年146分。1年生で自宅学習時間が2時間以上は31.5%、2年生は36.3%、3年生で3時間以上は39%である。</li> <li>4月調査と比較して23年生は増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自宅学習時間が1,2年生120分、3年生200分</li> <li>・教員のICT活用力を向上させ授業に積極的に活用し生徒の理解向上の一助とする。</li> <li>・AL9の視点を持って、全教科で公開授業を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で年2回(6・10月)に研究授業を実施するとともに、事後の合評会では授業者・参観者の今後の授業改善につなげる</li> <li>・各教科にICT係を設定し、情報科教諭、ICTアシスタントとともにICTの有効活用について知識を深める</li> <li>・各教科でスタディサプリの積極的活用を検討し、課題作成や補習の省力化を図るとともに、学習時間確保の一助とする</li> <li>・定期的に自宅学習調査を実施し、担任等の個人面談を通して学習を支援する</li> </ul>			
	一人一台端末の効果的利用と、新学習指導要領、特に観点別評価の導入について円滑に対応する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年、新学習指導要領による観点別評価、及びchromebookの有効活用に係る校内研修を実施し、理解を深めるとともに、具体的スキルの習得に務めた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に準拠した授業の実践と観点別評価が適切に行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改革研修会を実施し、新学習指導要領の理解を深めるとともに観点別評価のスキルの向上を図る</li> </ul>			

	具体的項目	令和4年度当初			評価結果(9月)		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 行事で団結・部活は熱中	本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティを育み、地域から信頼される学校作りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八頭高愛し愛され運動を6月と11月の2回実施した。6月は、生徒265名が参加し、約35.3%の参加率、11月は、生徒241名が参加し、約32.2%の参加率となった。2回ともコロナ禍にも関わらず、多くの生徒が参加した。各回ともに目標の参加率30%以上を達成した。</li> <li>・思考力や実行力、地域理解の深まり等に関して、肯定的な意見「はい」「どちらか」とはいは90%を超えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八頭高愛し愛され運動への参加者が各回とも全校生徒の30%以上</li> <li>・生徒会から積極的に意見を発信し、校則の見直しに参画する。</li> <li>・探究活動とおした思考力や実行力の向上に関して、肯定的な意見(「はい」と回答する生徒)の割合が60%以上</li> <li>・探究活動(2・3年生)とおした地域理解の深まりに関して肯定的な意見(「はい」と回答する生徒)の割合が70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部の全校生徒への呼びかけ方を工夫し、さらに参加者の増加を目指したい。</li> <li>・生徒会活動の活性化を支援し自主自律の取組を促す。</li> <li>・探究活動のプログラムの充実を図り、生徒が主体的に行動できる教材を開発する。</li> <li>・地域の理解を深めるため、キャリアパスポートの活用を充実させる。また、地域へのフィールドワークや活動内容の発信をおして、地域とのつながりを強化させる。</li> </ul>			
	生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・87%の生徒(保護者78%)は、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。</li> <li>・昨年度全国大会出場者ホッケー(男子・女子)、陸上競技、卓球、柔道、書道、放送、バレーボール(全国選抜チーム代表)、歴史研究同好会、ビブリオバトル 合計67名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が85%、保護者の割合が80%</li> <li>・学習と部活動の両立に向けて努力している生徒の割合が60%</li> <li>・全国大会に出場した生徒数が80人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生徒観察や声かけ、hyper-QUの分析・検討会、個別面談、教育相談・特別支援委員会、教育相談係・保健係連絡会、人権教育LHR等を通して生徒の悩みを把握する。</li> <li>・教職員同士がコミュニケーションを密に取り合い、保護者との連携も図りながら生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。</li> <li>・各部が全国大会出場を目指し、生徒も指導者も日々の取り組みを継続し、目標80名を達成したい。</li> </ul>			
3 進路に挑戦	基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を実現するために目標に向かって努力している生徒は、1年74%、2年85%、3年94%であった。(11月調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて努力している生徒の割合が1年生75%、2年生85%、3年生95%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導のための事業や、各類型、各分掌及び学年等の諸行事について、その意図・意義を生徒にしっかり理解させ実施することにより、視野を広げ、キャリアデザインにつなげていく。</li> <li>・キャリア教育全体計画に基づき、キャリア設計講演会、「大学生に聞く」講演会、長期休業中補習、勉強合宿、土曜自習・質問教室などの活動を通して進路選択と学力向上を図り、進路実現をより確かなものにしていく。</li> </ul>			
	多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学志願者(10月調査)は、1年121名(4月107名)、2年124名(1年4月131名)、3年107名(1年4月124名)であった。大学入学共通テスト受験者は131名(探究・総合コースの57.7%)であり、前年比1名増であった。国公立大学合格者数は58名、うち現役生は49名。前年比20名増であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学の現役合格者数が50人</li> <li>・大学入学共通テストの受験者数が150人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との個別面談等とおして、1、2年生は進路志望の確立とその実現に向けてなすべきことを強く意識させ、目標に向けて自律的に行動できる態度を育成するとともに、3年生は決定した希望進路の実現に努める。</li> <li>・大学・学部・学問研究の充実によって、将来のキャリアを見据えた上で何を学ぶべきかを考えさせ、具体的な進路目標に向けて努力する態度を育成する。</li> </ul>			
4 業務改善	類型制完成年度となることから、慣例となっている行事、会議等を見直し、所要の改善を行うとともに、時間外在校等時間の縮減に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の時間外在校等時間が月45時間を超えた者は平均7.8人、年間360時間を超えた者は17人。</li> <li>・令和3年度の年次有給休暇取得状況は1人あたり平均13日1時間。</li> <li>・毎月の部活動実施計画は適正な時間で計画されている。</li> <li>・時間外在校等時間の多い教職員には、毎月の時間外在校等時間について個票を渡し注意を促した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議が短時間で効率よく行われている。</li> <li>・時間外在校等時間が月45時間を超える者が月平均5人(全職員の8%)以下、年360時間を超える者が10人(全職員の15%)以下。</li> <li>・年次有給休暇取得が1人平均14日。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期単位で教育活動の見直しを行い可能な内容は年度途中からでも改善する。</li> <li>・掲示板等による情報共有を有効に活用。</li> <li>・ICTを活用し、業務効率化を推進</li> <li>・時間外在校等時間の多い教職員には、毎月の時間外在校等時間について個票を渡し、縮減に向けた意識喚起をする。</li> <li>・帰らーDAYの設定と運用</li> <li>・夏季休業期間中に対外業務停止日を設定する。</li> <li>・全部活動が「鳥取県立八頭高等学校部活動に係る方針」を遵守する。</li> <li>・部活動実施計画、実施報告の確認</li> </ul>			

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]